

スポーツ競技団体における環境問題対策に関する研究

A study on environmental protection by sports organization

1K05B051

指導教員

主査 作野誠一先生

小川 倫代

副査 友添秀則先生

【序論】

スポーツと環境問題。一見するとあまり接点がないように感じるかもしれないが、スポーツは元来、環境の中から生まれてきたものであり、環境と多くの接点を持つものである。ではスポーツ界はどのように環境問題とかかわっているのだろうか。様々なスポーツが存在するなかで、これらのスポーツがどのように環境問題とかかわり、どのような環境問題対策をおこなっているかはあまり議論されていないのが現状だ。本研究の目的は、スポーツ競技団体における環境問題対策の現状を明らかにすることである。そして、将来のスポーツと環境の共生ができるような未来への提言をしていきたいと考える。

方法は、まず歴史、スポーツ関連団体以外の環境対策を文献により調査する。そしてそれらを踏まえて、環境問題に対する各スポーツ競技団体の取り組みを具体的に提示する。データとしては、JOC 公式ホームページより平成 19 年度スポーツ環境委員会活動報告書を使用し、それを筆者が独自に指標を使い、まとめた上で考察を行うこととした。

【結果】

まず、スポーツと環境がどのように関わりがあるのかを知るために、歴史とスポーツ関連団体以外の環境対策を中心に調査した。そしてスポーツ競技団体における環境問題対策に関して表にまとめ、考察を行った。表から読み取れたことは、第一に、スポーツ競技団体の環境問題対策は大まかに、啓発活動と実践活動に分けることができ、

他の団体に比べて啓発活動の割合が大きいこと、第二に、環境問題対策を行っている団体は、啓発活動に関しては競技場での活動と選手等を含む関係者に対しての活動、実践活動に関しては競技場でのゴミ分別回収が主であること、第三に、環境問題対策を幅広く、あるいは独自に工夫するなど、力を入れている団体とあまり力を入れている団体があるということ、第四に、効果的な環境問題対策を行うためには、技術との連携が不可欠であるということ、第五に工夫の余地はまだ多く残されているということ、である。そして中でも特に、環境問題対策に力を入れている競技団体とそうではない団体の相違について考察を行った。

第一に、競技団体の規模、成熟度の違いによる考察、第二に、自然環境との関わりによる考察を行った。第一の考察では環境問題対策を CSR（企業の社会的責任）の観点からとらえた。一般の企業でも中小企業は CSR に対する関心が傾いているといえるが、この中小企業の CSR に対する考え方を参考にしつつ、そこから規模や成熟度の低い、競技団体でもおこなえるような環境問題対策を提案した。第二の考察ではスポーツが元来、自然の中から生まれたものであり、環境に配慮してきたが、自然との距離が離れてしまったために、自然に対する配慮を失ってしまったという現状について述べた。最後に、スポーツと環境の共生の方法として、環境問題対策はスポーツを発展させるための手段として、もっと活用していくべきであるということと、スポーツがもともと自然の中から生まれたものであり、自然に対して強い

関心をもう一度呼び起こし、そして、自然から与えられるだけではなく、少しでも自然に還元しようという気持ちを持つこと、が環境問題対策を行う上で十分に留意すべき点であると結論づけた。

【まとめ】

この研究を通じて、スポーツ競技団体における環境問題対策をまとめ、スポーツと環境問題の歴

史や他のスポーツ関連団体における環境問題対策、さらには企業の CSR とも関連させながら、スポーツと環境の共生方法を考えた。環境問題対策はこれからもっと必要となり、環境に関する分野はこれから発展していくであろう。多くのスポーツに関わる人たちが、スポーツを通じて環境のことを考えるようになってくれることが理想であると考え